

## 令和4年度学校経営報告

### 1 今年度の取組結果について

#### (1) 教育活動の結果

新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行った。健康チェック表の管理、生徒玄関にある体温熱感知機によるチェックをして、熱の高い生徒は自宅へ帰す指導を行った。年度末には、スマートフォンによるデータ入力に切り替え、効率的な登校時指導を実施した。給食時は一方向を向いて座らせ、黙食とした。部活動は週2回程度とし、密にならないように配慮した。また、講演会、進路講話、セーフティ教室などは東京都の基準に従い、中部学校経営支援センター支所等と相談しながら、安全を確認した上で実施した。

オンライン授業の実施は長年の課題であったが、平成5年9月のオンライン学習デーに向けて、本格的な準備を始めている。

##### ① 学習指導

- ア 対面授業の中で、ICT利用授業、研究調査、研究発表の実施により、自分の考えを表現できるようになり、基礎的内容の理解を高め、定着を図った。
- イ 課題研究、総合実習等で、探究調べ学習を実践することで、生徒が発言する機会が増加した。
- ウ 農業検定、池坊華道会免許を受けさせ、資格習得の意欲が増加した。検定前には、始業前授業、放課後、長期休業中において、個別指導が行われた。

##### ② 生活指導

- 新型コロナウイルス対策として、週2回程度の部活動の中、土日の活動の自粛等により、部員数が減少し、生徒の部活動意欲が減少した。
- ア 社会の一員として大切な礼節指導は、授業中に個別に注意を促すなどを通じて実施した。授業中の私語、スマートフォンの使用はなくなった。
- イ いじめ等に関する指導として「いじめアンケート」を3回、全生徒に行い、生徒の状況把握に努めた。またSNS等の使用上のルールや活用の仕方について指導を徹底した。生徒からの相談や声に耳を傾け、事前に防いだ。
- ウ 登下校の交通安全や自転車通学の安全確保と自転車保険について指導した。新型コロナウイルス3年目の対策として、授業後の帰宅を徹底し、電車、バス等ではマスクをして騒がない指導を行った。
- エ 年間4回の防災訓練はそれぞれ場面設定を変更し、計画的に実施した。防災講話は地震について学び、保護者と生徒間の連絡の取り方、集合場所の確認を行った。
- オ 新型コロナウイルス対策を取りながら、農芸祭、講演会、スポーツ大会等は開催できた。

##### ③ 進路指導

- 新型コロナウイルス対策を行い、学校見学や会社訪問を行った。個別指導を徹底し、進学、就職希望者が進路決定に至った。
- ア 希望進路の実現に向けて、担任や進路担当等により、小論文指導、履歴書指導、面接指導の充実を図った。
- イ 進路講話などの進路指導行事を通じて、進路情報の提供に努めた。また、生徒の希望を調査して情報を提供し、生徒の進路意識を高めた。

##### ④ 特別活動・部活動

- ア 農芸祭、収穫祭、スポーツ大会は、新型コロナウイルス対策をしながら縮小して行った。生徒は学校行事の意義を理解し、主体的に考えて実践できるようになった。

イ 部活動は新型コロナウイルスの関係で活動は制限された。こうした中、日本学校農業クラブ全国大会出場、ボクシング部は関東大会出場を果たした。

⑤ 募集・広報活動

ア 学校パンフレットやホームページの更新や学校説明会、体験入学、個別相談会を行い、学校情報の発信に努めた。

イ 二次募集までの応募は0.17倍に留まった。危機感をもって、募集対策の充実を図る。

⑥ 健康づくり

ア スクールカウンセラーによる1学年全員面接、教員向けの研修を実施し、多様な生徒の課題を共有した。

イ 防災講話において、生徒、教員とともに、AEDを活用した心臓マッサージの方法を体験し、救急救命についての実技訓練を実施した。

⑦ 学校経営の充実

ア 新型コロナウイルス対策に則り、年間指導計画、週ごとの指導計画を立て、計画的に授業を展開した。また、入学式、卒業式は実施要項に基づき、適正に実施した。

イ オンラインによる体罰や服務事故防止研修により、体罰や不適切な指導の根絶や個人情報管理の徹底を図った。

ウ 安全衛生委員会を通じて、定時退庁を奨励し、長時間労働による健康障害防止のための面接指導実施をゼロとし、ライフ・ワーク・バランスを図った。

エ 経営企画室と協力し、学校行事や入学試験業務を実施し事故をゼロとした。物品購入や私費会計、給食会計の処理等について経営企画室と協力し適正に実施した。

⑧ 地域貢献の充実

新型コロナウイルス対策を取りながら点字図書館と定期的な貢献活動を継続し、社会性やコミュニケーション能力、ボランティア意識の醸成を図った。

⑨ 特別支援教育の理解

特別な支援を必要とする生徒理解のために研修、情報交換を行い、指導方法に従って生徒一人一人に対応した。

(2) 重点目標の結果

① 学習指導の充実

ア わかる授業に向けて、個々の生徒へ積極的に発問し、授業参加の意欲を高めた。また、また、実習も新型コロナウイルス対策をしながら実施した。

イ 若手教員を中心として、ICT機器を活用して、電子黒板、ビジュアル等を提示し理解しやすい授業づくりをした。また、課題研究等では各自で調べ学習を行い、インターネット検索、図書館の専門図書を利用して学習を進めた。

② 生活指導の充実

ア 特定の生徒に、遅刻や欠席が集中しているので、担任と改善を図った。授業や集会時の私語、スマートフォンの禁止指導を継続し、正しい礼節を身に付けさせた。

イ インターネット等の使い方について、セーフティ教室や集会において指導を行い、他人を傷つける行為やトラブルに巻き込まれるおそれのある行為を行わないようにするための取組を充実させた。

③ 進路指導の充実

ア 1学年では「人間と社会」において、点字図書館での体験活動やを通じて、生徒の道徳性を養い、より良い方を主体的に選択し、行動できる力を育成した。

イ 小論文・履歴書・願書指導、会社・専門学校・職業訓練校を希望した理由等の指導、面接指導をきめ細かく行ったことで、生徒は意欲をもって進路実現に取り組んだ。

④ 広報・募集活動

ア 学校ホームページをリニューアルし、更新を定期的に行った。

イ 個別相談会を随時、体験入学1回を実施したが、第一次募集には繋がらなかった。私立の高校や広域通信制を希望する者が増えたと分析する。今後も危機感をもって対応する。

⑤ 健康づくり

ア スクールカウンセラーによる1学年の全員面接のほか、体罰調査、教育相談委員会を通じ生徒把握に努めた。

イ 課題のある生徒については、毎日の打合せ等で情報を共有した。また、個別指導の内容を共有し、共通指導に当たった。

⑥ 学校経営の充実

ア 教職員、生徒全員で新型コロナウイルス対策、節電、節水、節ガスを行い省エネルギーに取り組んだ。

イ 予算及び私費会計は適正かつ計画的に執行した。

ウ 施設・設備は適正に使用され管理されている。

⑦ 地域貢献の充実

点字図書館の植栽を2回、実施した。

(3) 数値目標の結果

① 学習指導の充実

・授業満足度（学校評価アンケートによる） 56% (3年度実績 90%)

② 生活指導の充実

・遅刻の低減（クラス1日当たりの遅刻者数） 1.3人 (3年度実績 1.3人)

・中途退学率 2.8% (3年度実績 5.9%)

③ 進路指導の充実

・進路決定率 83.3% (3年度実績 71%)

④ 保護者満足度

88.8% (3年度実績 100%)

2 令和4年度以降の課題と対応策

新型コロナウイルス対策は東京都の方針に則り、生徒の安全を優先し効率の良い学習、生徒指導、部活動を行い豊かな高校生活を送らせることを目標に学校全体で行動する。

(1) 基礎学力の定着と向上

① 学力向上のため基礎・基本の学習指導を継続して行うことが大切であるので、わかる授業、楽しい授業に努めるとともに、日頃の補習はもとより定期考査前の個別指導を丁寧に実施し、学習への意欲を高める必要がある

② 授業に興味関心を高めるために、生徒が積極的に参加する授業を展開し学習意欲を高める必要がある。

③ 授業中の生活指導を丁寧に言い、授業に対する姿勢を改善し学習への積極性を高める工夫をする。

④ 家庭学習の充実のため宿題等を積極的に活用する必要がある。

⑤ 農業技術検定などに積極的に参加し、資格講習等に参加する。

(2) 基本的生活習慣の定着

① 本年度も人の話を聞くときには会話がない集会になり、学校生活も落ち着いている。今後も、生活習慣の改善に向け全職員で取り組み、時間を守る習慣をはじめ、社会のルール、社会の秩序を守る指導を通じ自立心を醸成し安全教育にする。

② 規範意識を高め、社会人として身に付けるべき基本的態度、知識の指導を行い、社会への参画意識を高めさせる。

(3) 中途退学者の減少

- ① 学習指導や生活指導はもとより、特別活動の充実を図り、学校への帰属意識を高める指導を充実させる。
- ② スクールカウンセラーと連携し、教育相談活動を充実させ心の教育の推進を図る。
- ③ 生徒が担任等に相談できる環境を、学校全体で組織として作り上げる。また、保護者、施設関係者との連携を密にする。
- ④ 多様な家庭環境の保護者、生徒に対して公的機関、病院、相談員との連携を今後強化する。

(4) 進路決定率の向上

- ① 1 学年からのキャリア教育を充実させ、進路への意欲を持たせ希望進路の実現を図る。
- ② 小論文指導・面接指導を 2 年次より充実させ、生徒に自信を持たせ希望進路の実現を図る。
- ③ 4 年生夏の就職、進路学習の充実を図る。資格受験を目指す

(5) 特別支援教育理解の拡充

- ① 多様な生徒、多様な民族、文化、宗教、食事を理解するためのクラス運営を行う。
- ② 多様な生徒に対応するために、中学校、特別支援学校等の連携を強化する。  
特別支援学校との交流を深め、生徒一人一人が持つ特性を理解する。
- ③ 特別支援学校、学習支援センターから、外部講師等を招き特別支援教育研修の充実を図る。
- ④ 特別支援教育研修に全教員を参加させる。
- ⑤ 特別支援生徒理解の為、特別支援学校視察、特別支援職業訓練所見学を行う。
- ⑥ 特別支援を必要とする生徒の保護者、施設等との連絡を密に行い個別支援計画が必要な生徒には作成し、学校全体で支援計画に基づき生徒に働きかける。